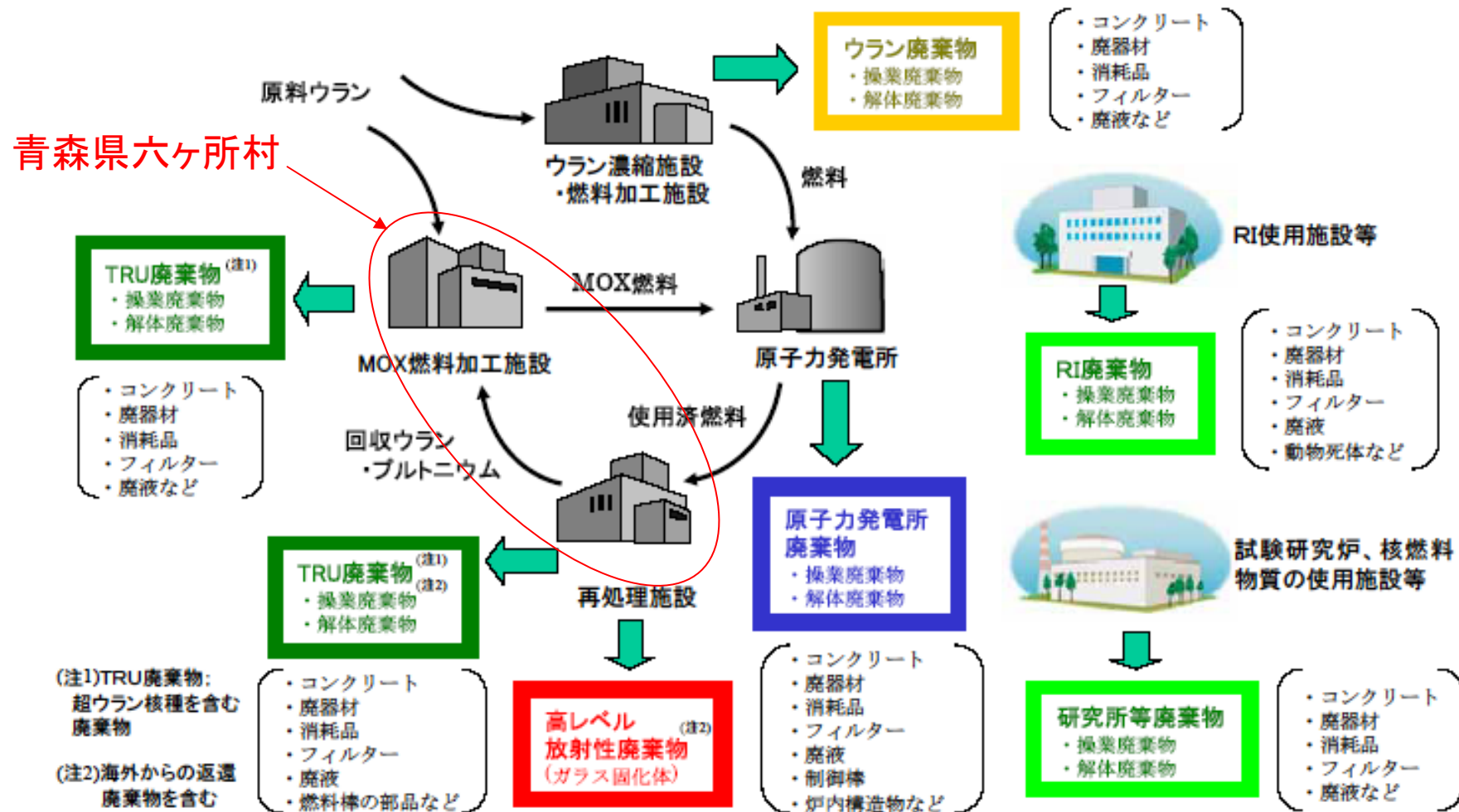


原子力バックエンド（再処理、MOX燃料加工）の整備とともに出揃う放射性廃棄物

放射性廃棄物は、原子力発電所や再処理施設、ウラン濃縮・燃料加工施設などの核燃料サイクル施設、医療機関や研究機関等の操業や廃止措置に伴い発生。



新計画策定会議(第19回)資料第2号

なぜ今頃になっていうのか。廃棄物が出るのは昔からわかっていたことではないか

エネルギー・資源と廃棄物に対する考え方

| | フロントエンド(上流) | | バックエンド(下流) |
|----------|--|-------------------------------|--|
| 資源 | エネルギー密度 (100万kW, 1年) | 資源量 | 環境負荷(廃棄物) (1人1年の電力当たり) |
| 自然エネルギー | 水力:貯水量, 落差 太陽光:67 km ² 風力:248 km ² | 再生 | 太陽光: 67 m ² (20坪)の面積 風力: 248 m ² (70坪)の面積 |
| 化石エネルギー | 石炭:200万トン 石油:140万トン 天然ガス:93万トン | 石炭:164年 石油:41年 天然ガス:67年 | CO ₂ :約 4 ~5 トン 重金属を含む灰:数百kg |
| 原子力エネルギー | 濃縮ウラン:21 トン | 軽水炉:85年 高速増殖炉:2550年 | 高レベル廃棄物:約15g 低レベル廃棄物:約600g |

これまでの社会：入手の
しやすさが値段を決める
(廃棄物は後回し)

これからの社会：環境負
荷とのセットで考える

少量なので
隔離閉じ込
めができる

原子力委員会の出すべき精神的バックグラウンドとなるメッセージ

- 放射性廃棄物の処理処分は原子力発電とのセットとして選択されており、この選択は持続的発展の社会を目指すための価値ある選択であること。
- 放射性廃棄物の処理処分は国民と環境の安全を確保するための公共事業であり、社会が前向けに取り組むべき課題であること。
- 処分地の選定は、全国民の出した廃棄物を安全確保のために1箇所に集めて捨てるものであり、その際には負担の公平性を確保する必要があること。

原子力委員会が総司令塔として示すべき計画

- 全ての放射性廃棄物の処理処分の長期計画の提示。

| 廃棄物の区分 | | | 原子力委員会 | 原子力安全委員会 | | | 安全規制関係法令等 | | | |
|-------------------|---------------------------|---------------------------------------|------------------------------------|---------------------------------|-----------------------------|-------------------------|-----------------|-------------------------|-------------------------|--|
| | | | 処分方針 | 安全規制の考え方 | 濃度上限値等 | 安全審査指針 | 政省令*1 | 規則、告示 | | |
| 高レベル放射性廃棄物 | | | 報告 (1998年5月) | 報告(暫定) (2000年11月) | 共通的な重要事項 報告 (2004年6月) | | 今後検討 | 今後整備 | | |
| 低レベル放射性廃棄物 | 発電所廃棄物 | 放射能レベルの比較的高いもの【余裕深度処分】 | 報告 (1998年10月) | 報告 (2000年9月) | | 報告 (2000年9月) | 今後検討 | 制定 (2000年12月) | 今後整備 | |
| | | 放射能レベルの比較的低いもの【浅地中ピット処分】 | 報告 (1984年8月) | 報告 (1985年10月) | | 報告 (1987年2月、1992年6月) | 報告 (1988年3月) | 制定 (1987年3月、1992年9月) | 制定 (1988年1月、1993年2月) | |
| | | 放射能レベルの極めて低いもの(コンクリート等廃棄物)【浅地中トレンチ処分】 | | | | 報告 (1992年6月) | 報告 (1993年1月) | 制定 (1992年9月) | 制定 (1993年2月) | |
| | | 放射能レベルの極めて低いもの(金属等廃棄物)【浅地中トレンチ処分】 | | | | 報告 (2000年9月) | 今後検討 | 制定 (2000年12月) | 今後整備 | |
| | 超ウラン核種を含む放射性廃棄物(TRU廃棄物) | | 報告 (2000年3月) | 検討中 (2000年6月～) | | 今後検討 | 今後検討 | 今後整備 | | |
| | ウラン廃棄物 | | 報告 (2000年12月) | 検討中 (2001年4月～) | | 今後検討 | 今後検討 | 今後整備 | | |
| RI・研究所等廃棄物 | | 報告 (1998年6月) | 検討中 (1998年6月～:RI廃棄物は報告:2004年1月) | 今後検討 (研究所等廃棄物) | 今後検討 (研究所等廃棄物) | 今後整備 | | | | |
| 放射性物質として扱う必要のないもの | 放射性物質として取り扱う必要のないものの放射能濃度 | | 報告 (1984年8月) | 報告 (原子炉施設及び核燃料使用施設:2004年10月) | | | | 今後整備 | | |
| | クリアランスレベル検認 | | | 報告 (原子炉施設のみ:2001年7月) | | | | | | |

*1:核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律、放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律に係る政省令

処理処分政策は、発生者ごと、処分法ごと、処理と処分ごとにばらばらで、対症療法的、合理的で整合性のある技術開発や社会との対話がなされていない。



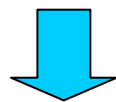
長期的に放射性廃棄物の処理処分を統括して考える総司令部を原子力委員会の下に設置することが必要

廃棄物の処理処分、安全の確保：公共事業としての処理処分研究開発

- 自由競争と利益追求の社会構造の中で、公的なコントロールがなければ、後回しになる(問題が出るまでだれもやらない)ということの理解が必要。
- 環境安全の問題の解決には、強力な政策的リーダーシップが必要。
- 原子力発電と放射性廃棄物はセットとして選択されているとの理解が必要。

例えば、大学で放射性廃棄物の処理処分の研究をした後の廃棄物について、その処理処分費用を支払うのは、発生者責任の考えで大学だとすべきか。

それぞれが自分の立場で最大の利益を求めているだけでは、持続的発展の社会は築けない。経済社会の中で、公共的事業を行っていくにはどうすればよいか？



国民との間の信頼関係の下にこのリーダーシップをとる

原子力委員会